

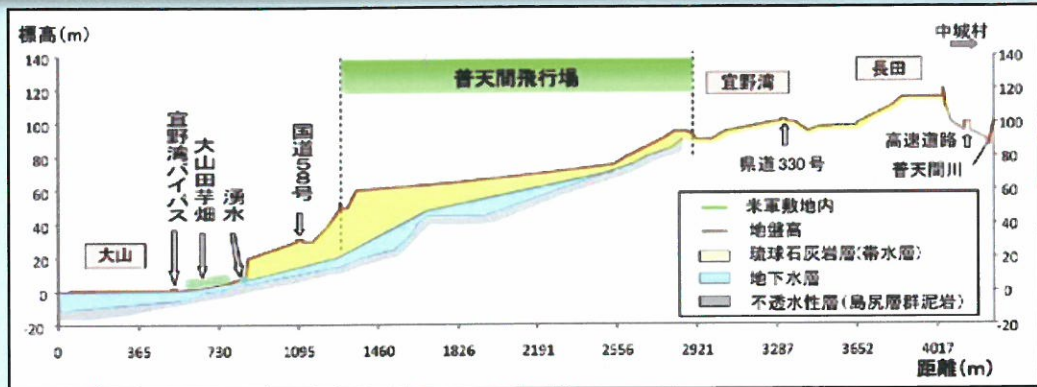
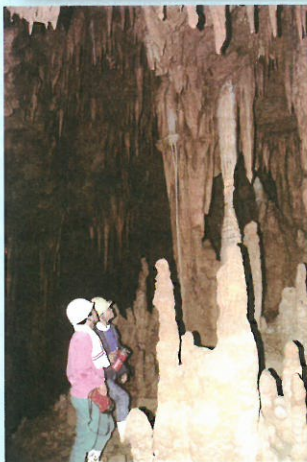
# 環境に及ぼす影響

## ●環境被害は戦後確認されているだけで 50 件以上発生。

宜野湾市内で発生した基地から派生する環境被害は、戦後確認されているだけでも、50件以上にも上り、そのほとんどが燃料漏出や基地からの雨水流出となっております。

環境被害は、基地周辺住民の生活環境の汚染に繋がるなど、二次被害に及ぶだけでなく、返還後の跡地利用に大きな影響を及ぼすことが考えられますが、燃料漏れなどは事故発生から数日後に連絡が来るのがほとんどで、市や県が土壌調査等を求めても、米軍側から拒否されており実現していないのが現状です。

→ 普天間飛行場滑走路付近にある鍾乳洞



↑ 普天間飛行場周辺の地盤環境（東西断面の模式図）

# オスプレイ強行配備 実効性に疑問が残る安全宣言

2012年9月19日、防衛省・外務省はオスプレイの運用について安全性は十分に確認されたとして安全宣言を行いました。

しかし、その内容は、「可能な限り」や「運用上必要となる場合を除き」などの文言が付き、**実際の運用は米軍任せ**となっております。以下、MV-22オスプレイの沖縄配備について（概要）からの抜粋です。

- ・ 低空飛行訓練について、最低安全高度（地上500フィート）以上の高度で飛行し、人口密集地等の上空を回避すること
- ・ 飛行経路について、可能な限り学校や病院を含む人口密集地域上空を避けるよう設定し、可能な限り海上を飛行すること
- ・ 運用上必要となる場合を除き、垂直離着陸モードでの飛行を米軍の施設・区域内に限り、転換モードの時間を可能な限り短くすること
- ・ 適用される騒音規制措置に関する合同委員会合意事項をMV-22の運用においても引き続き遵守すること
- ・ 夜間訓練飛行は、必要最小限に制限し、シミュレーターの使用等により、普天間飛行場周辺住民への影響を最小限にすること

# オスプレイ配備による市民生活への影響

## ・ オスプレイに関する苦情

**87件** (オスプレイ配備以降  
～H25.12月末)

## ・ 騒音最高値

**102dB** (H25.2.26測定)

### 市へ寄せられたオスプレイに関する主な苦情内容

- ・ オスプレイが飛行しているが、とても**落ち着かなく具合が悪い。**
- ・ オスプレイが飛行するようになってから、**地デジ受信障害が酷くなった。**
- ・ **地響きがすごく仕事に集中できない。**
- ・ **正月**というのにオスプレイがずっとヘリモードで飛行している。
- ・ **騒音が低音で心臓に響き、健康への被害が心配。**
- ・ オスプレイの騒音がうるさくて眠れない。(23時45分)
- ・ **自宅が揺れるほど低空飛行をしている。**

